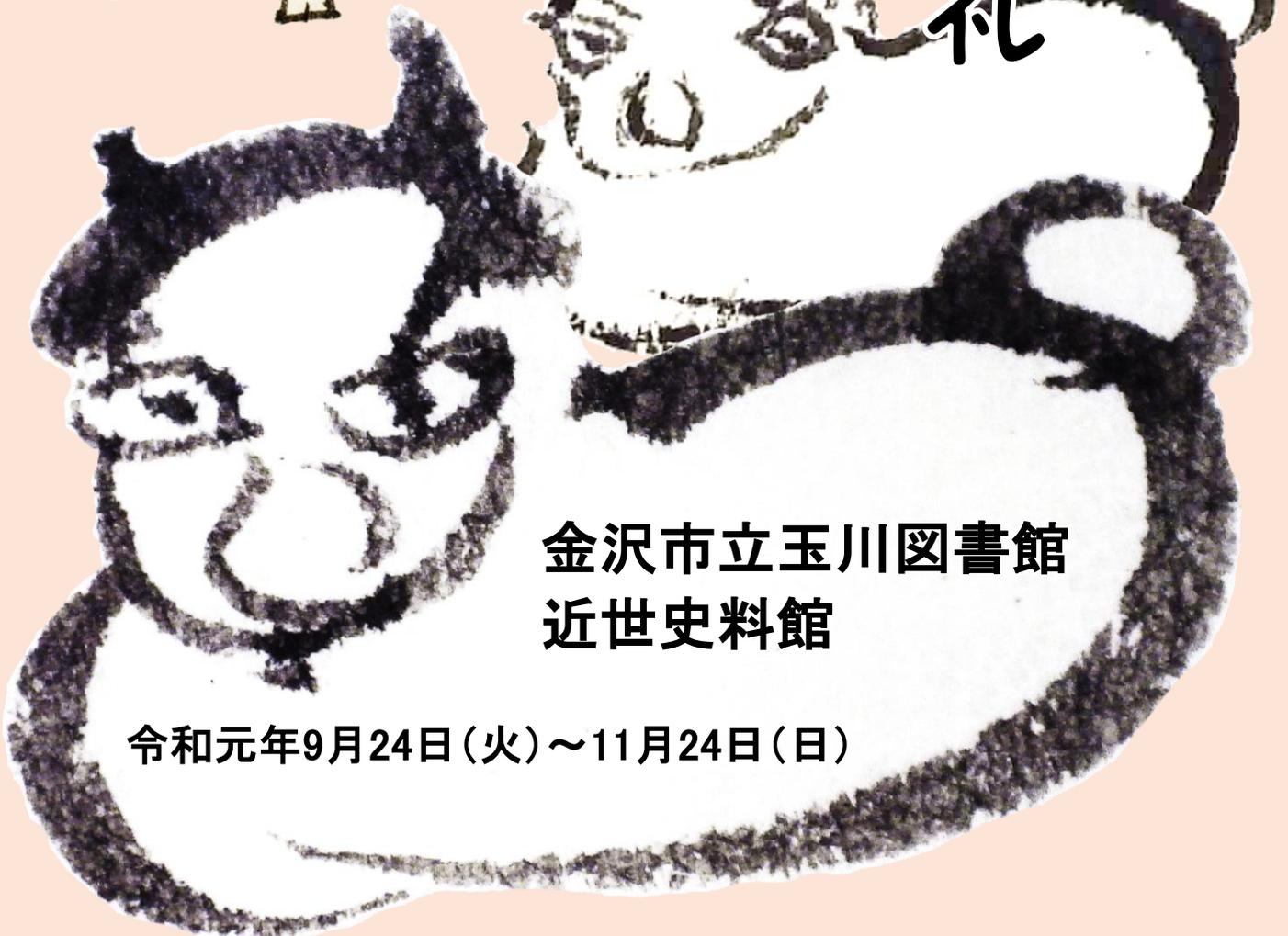
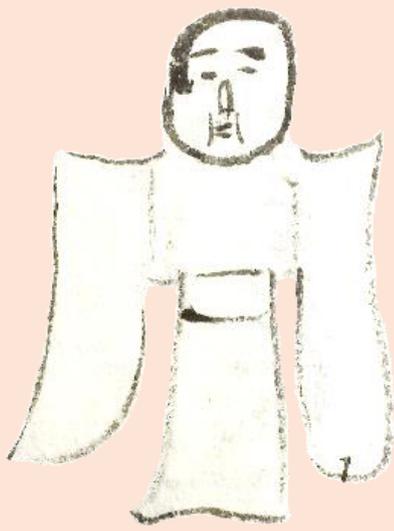


令和元年秋季展

前田家娘の婚礼



金沢市立玉川図書館
近世史料館

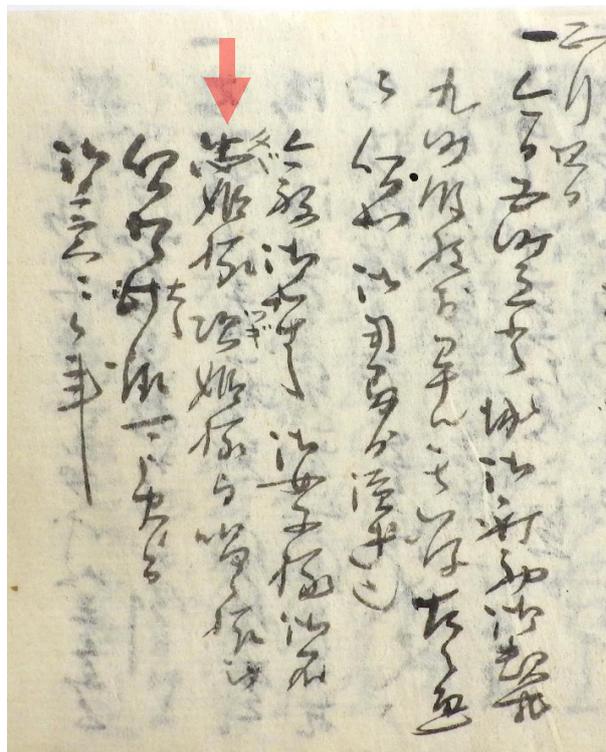
令和元年9月24日(火)~11月24日(日)

はじめに一娘の誕生と成長—

文政12年（1829）12月26日、12代藩主斉広（なりなが）に双子の娘が誕生した。右の史料にあるように、翌月4日、この双子は忠姫（後の寿々姫）、次姫と呼称することが決まった。このように前田家に娘が誕生すると、数日以内に名前がつけられた。その後、宮参、箸初、髪置（幼児が髪を伸ばし始める時に長寿を願う儀式）などの人生儀礼が行われた。そして、娘たちは、ある程度の年齢になると、大名家、家臣の家、公家などに嫁いでいった。

下の2枚の写真は、13代藩主斉泰の娘洽（あい）姫と坻（おか）姫である。（1）は洽姫（左）が10歳頃、坻姫（右）が14歳頃、（2）は洽姫（右）が14歳頃、坻姫（左）が18歳頃であろう。これらは前田家の娘の容姿がうかがえる数少ない写真である。この2人を含め、前田家歴代藩主の娘の総人数は、養女を含めると約70人にのぼる。右の表は、前田家の娘の嫁ぎ先を示したものである。大名家が一番多く、次いで家臣の家、公家と続く。

江戸時代では、婚礼の前後にいくつかの儀式が行われた。例えば、次頁の表で示したように、藩主斉広の娘厚姫の婚礼（会津藩主松平容敬（かたたか）との婚礼）では、婚礼前後に道具御覧、皆子餅、賀入、里披などの諸儀式が行われていたことがわかる。本展では、婚礼までの過程やそれに付随して行われた諸儀式についてみていく。



「忠姫様、次姫様御誕生墓目相勤候覚」(「墓目覚書」、094.0-74④)

前田家娘の嫁ぎ先

分類	事例数
大名家	22
家臣の家	21
公家	7
その他	4

※正式に興入れした事例を集計した（再婚を含む）。また、明治以降の事例は、旧身分でカウントした。

(1)



(2)



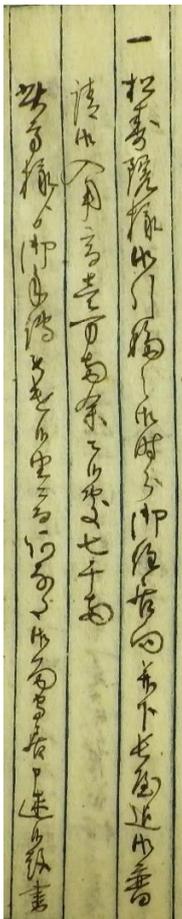
「洽・坻写真」(「前田斉泰・娘洽・坻写真」、左:090-1466-46-3、右:090-1466-46-2)

厚姫の婚礼関係諸儀式など

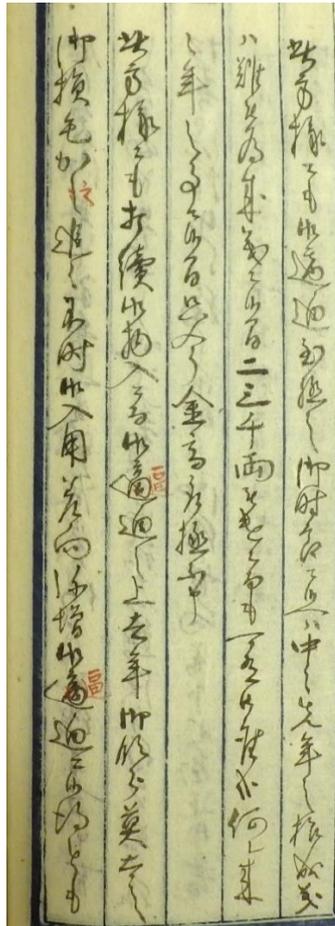
日付	出来事
文政10年9月29日	厚姫、江戸到着
文政10年10月10日	会津藩主松平容敬の使者三宅多門（同藩留守居）から、引移り（輿入）が来年4月の予定であったが、容敬が参府する予定があるため、引移りを来年2月中にし、結納はそれ以前にしたいという書状が届く
同11月15日	厚姫、お歯黒をつける
同12月19日	結納・婚礼などの日取り決定
同29日	内約金1,000両を会津松平家側に送る
文政11年正月25日	結納、引移りなどの日程変更
同26日	道具御覽
同28日	初日御道具（婚礼道具運び出し）
同2月4日	内約金の残り2,000両を会津松平家側に送る
同11日	厚姫、名を矩子とする。引移後、和田倉御前と呼称することが決まる
同13日	引移り、婚礼
同19日	皆子餅、聳入、里披
同3月2日	舅入

1. 婚礼に向けた準備

大名家の子女が婚礼を行うためには、当事者の家同士の取り決め、様々な手続きなどが必要であった。ここでは婚礼に向けた準備の様相をみていく。



一、松寿院様御引移之御時分、御住居向并下長屋迄御普請御入用高壹万兩余二候処、七千兩此方様方御手伝被遣候(以下、略)



「厚姫様御縁組被仰合候一件」(16.16-167)

此方様二も御逼迫至極之御時節二候へハ、中々先年之様成義ハ難被為成義二候間、二、三千兩被遣二而も可有御座哉、何し来々年之事二候間、只今金高取極不申、此方様二も打続御物入二而御逼迫之上、去年御領分莫太之御損毛加之追々不時御入用差向弥増御逼迫二候(以下、略)

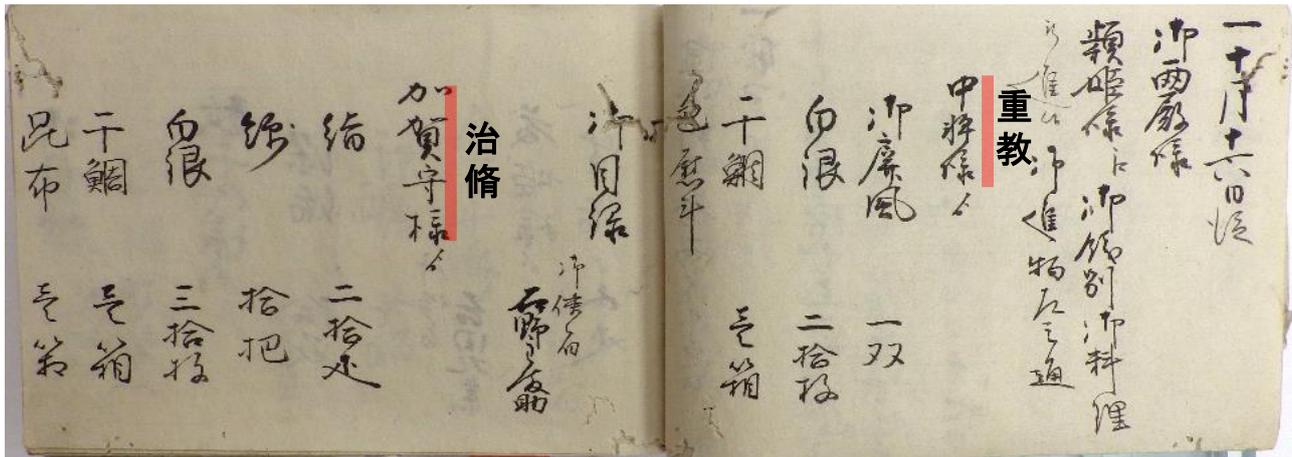
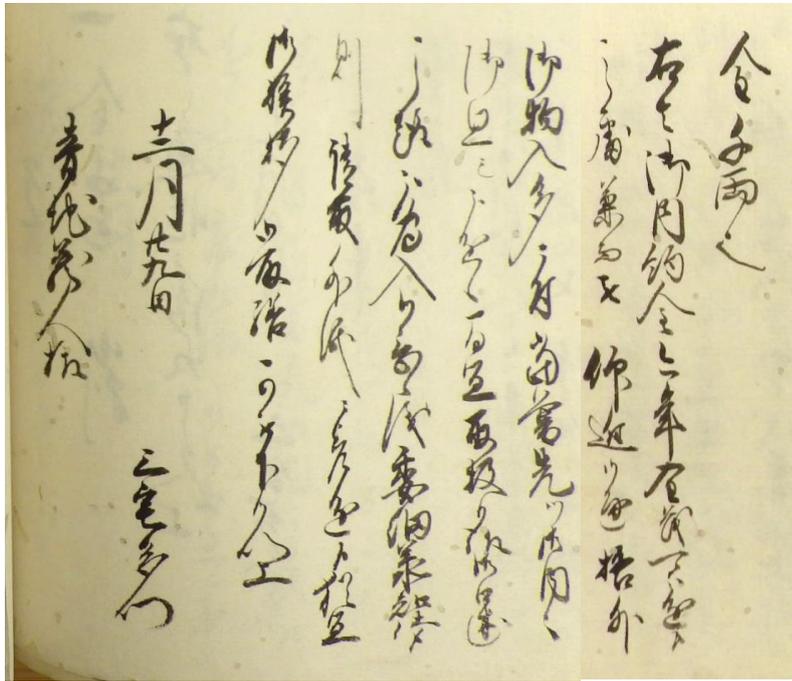
文政9年（1826）5月、12代藩主斉広の娘厚姫の婚礼時の内約金などについて、相手方の会津藩の要望をふまえ、加賀藩の家臣間でやり取りした書状の一部。

（左）松寿院とは、11代藩主治脩（はるなが）の養女（10代藩主重教（しげみち）娘）颯（えい）姫のことである。天明3年（1783）、颯姫は会津松平家の容詮（かたさだ。5代藩主容頌養子。家督相続前に死去）との婚礼を行った。その颯姫の引移りの際は、住居や下長屋が建てられ、入用高は10,000両であり、その内7,000両は前田家側が負担した。

（右）今回は、藩主斉泰の相続（文政5年）や前年の文政8年の莫大な損耗高の影響を考慮して、2、3,000両（内約金）になるだろうか、と伺っている。最終的には、3,000両に決定したようであり、2回にわけて渡した。

「厚姫様江戸御着府より御婚礼一卷」
(16.16-169)

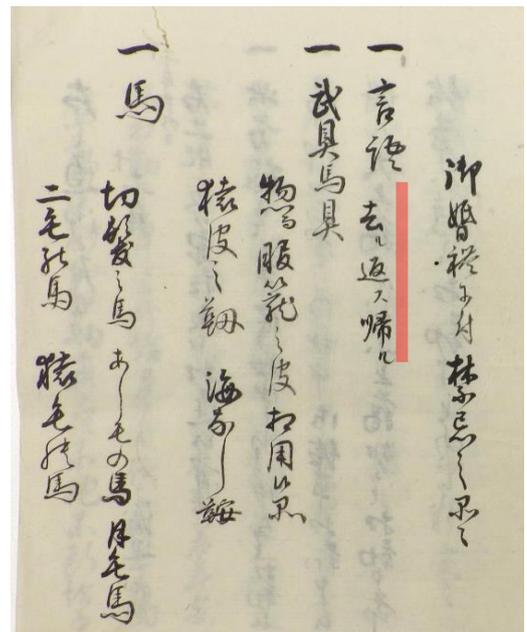
文政10年12月29日、藩主斉広の娘厚姫の婚礼に際し、内約金1,000両を払った時の請取書写。三宅多門は、会津藩の留守居である。その後、文政11年2月4日に残りの内約金2,000両を払った。



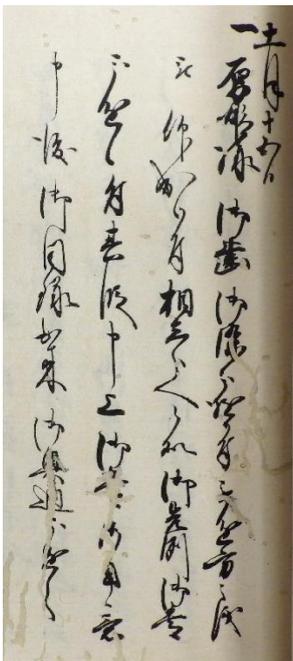
「御婚礼記」(16.16-129)

(上) 藩主治脩の養女頼姫の事例。天明3年、頼姫は会津松平家の容詮との婚礼を行ったが、上の史料には、その前年10月16日、引移り前に重教（前藩主）と治脩から、屏風、白銀、干鯛などの餞別をもらったことが書かれている。

(左) 藩主斉広の娘厚姫は、文政11年2月に引移り、婚礼を行うが、すでに前年11月からお歯黒をつけていた。

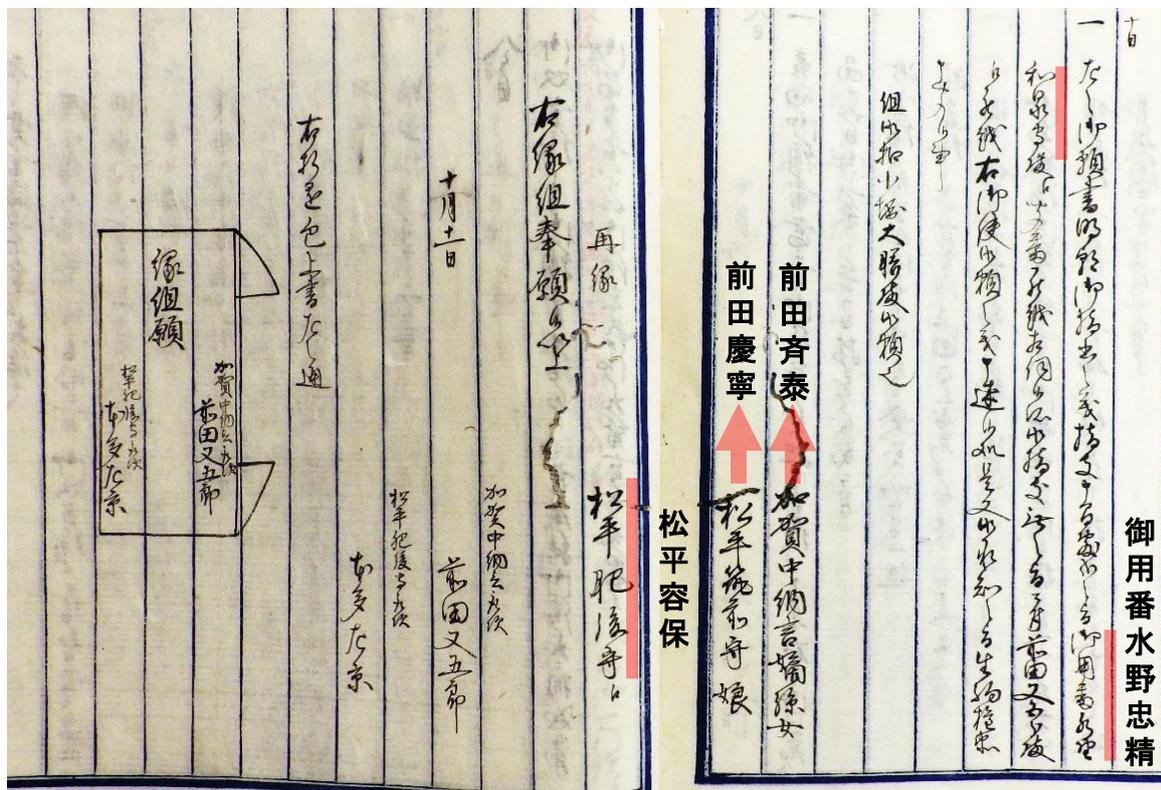


「厚姫様御婚礼御用留」(「厚姫様御婚礼一件留」、16.16-170①)



「寛姫様御婚礼一件」
(16.16-182①)

(右上) 近い将来、婚礼をあげることが決まると、禁句の語や使用を避けられていた武具・馬具、馬があった。禁句とされた言葉には、「去ル」「返ス」「帰ル」（傍線部分）といった、いずれも婚礼には不適切なものがみられる。



「礼姫様御縁組被仰合候一卷」(16.16-225)

大名家の縁組には、最終的に幕府の許可が必要であった。上の史料は、文久2年（1862）の14代藩主慶寧（よしやす）の娘礼（みち）姫と会津藩主松平容保（かたもり）との縁組許可願いの書状の写である。御用番老中の水野忠精へ事前に内容をチェックしてもらっていることがわかる。また、これを提出した者は、前田家側、会津松平家側ともに取次役であり、前田家は旗本の前田又五郎、会津松平家も同じく旗本の本多左京であった。



「寿姫様御婚礼一卷」(16.16-85⑬)

先日被仰聞候御家来
前田美作守娘、御手前様
御養輕公家衆江御有付
被成度旨先例も有之
儀候間、御勝手次第御座候
相応之方被聞召合、重而
御願可被成候、右之段
可得御意与奉存処
御手紙被下候故、乍次而
如此御座候、以上
六月廿八日 秋元但馬守
松平加賀守様

御用番老中の秋元喬知（但馬守）が、5代藩主綱紀に出した書状（正徳元年カ）。内容は、加賀藩年寄（他藩の家老に相当）前田孝行の娘を綱紀の養女（誠姫、後寿姫）にして、その後公家へ嫁がせることを内諾し、相手が決まれば正式に願い出るようにと伝えたものである。事前に老中に確認を取り、内諾を得て、縁組を進めていったことがわかる。

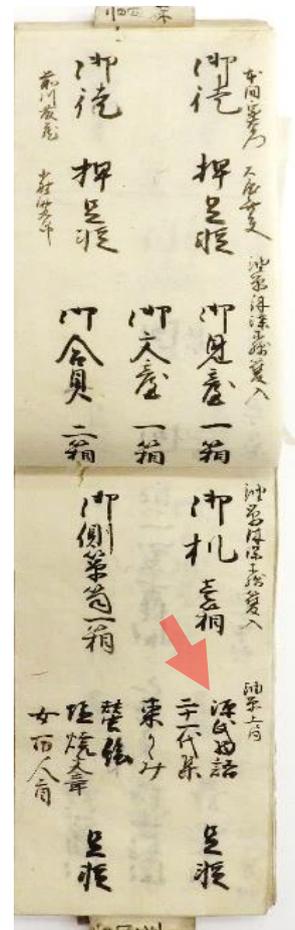
2. 婚礼道具

婚礼道具の内容は、基本的に先例に従い、決められていた。大量の婚礼道具は、結納前に数日にわけ、相手方の屋敷に運ばれた。ここでは、道具行列や道具そのものについてみていく。

「藤姫様御道具御行列帳」記載の道具一覧

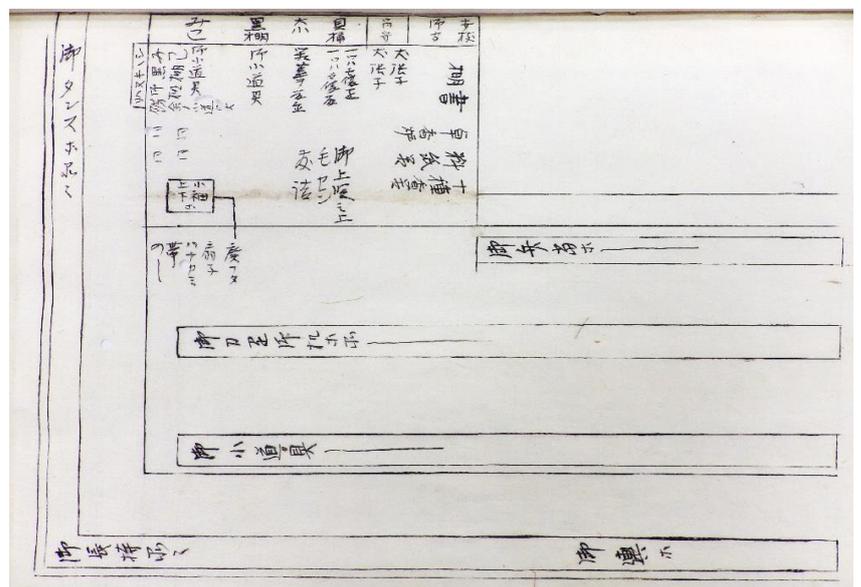
行列別	道具
初日暮番	堅地蠟色御紋竹唐草絵巻御厨子棚
	堅地蠟色御紋付竹唐草絵巻御黒棚
	堅地蠟色御紋付竹唐草絵巻御書棚
	御薙刀
	御扶箱并棒
	御琴 ×2
	御かさ
	御琴 ×2
	御褥 ×7
	黒塗御紋付蒔絵御小長持
初日引続二番	御総棚
	御香棚
	御卓
	御香炉
	御衣桁 ×7
	御葛籠 ×2
	御手水盥 ×4
	御伏籠
	御手水盥 ×2
	黒塗御紋蒔絵御小袖箆笥 ×2
二日目三番(朝)	栗色御小袖箆笥
	御広蓋 ×3
	御幔(幔カ)幕
	御布幕
	御幕串
	御華瓶 ×2
	御花台 ×2
	御刀掛 ×4
	御茶磨
	御台子
二日目三番(暮)	同風炉釜
	御茶箆笥并小道具共
	御茶弁当
	御台子
	同風炉釜
	御茶箆笥并小道具共
	黒塗御紋蒔絵御長持 ×9
	御見台
	御文台
	御合貝 ×2
二日目三番(朝)	御机
	御側箆笥
	源氏物語
	二十一代集
	東かゝみ
	螢絵
	塩焼文章
	女百人首
	御棋盤
	御将棋盤
御双六盤	
御翠簾	
御手拭懸 ×5	
御行器 ×4	
御火鉢台 ×4	

二日目四番(暮)	御掛盤 ×4
	御懸盤 ×7
	御手拭懸
	御手水盥 ×3
	御手拭懸 ×2
	黒塗御長持 ×5
	御たはこ盆 ×8
	御櫛すまし盥
	黒塗御長持 ×10
	御食籠 ×10
三日目五番(朝)	御提重
	御重 ×5
	御小重
	御重 ×4
	御重居
	猫足膳具 ×6
	蝶足膳具 ×6
	御燭台 ×10
	毛氈
	御扶箱 ×2
三日目六番(暮)	押かね
	御屏風挟金
	栗色御長持 ×5
	御屏風(琴棋書画)
	御屏風(九老七賢)
	御屏風(吉野龍田)
	御屏風(奥州松嶋之景)
	御屏風(翠簾柳桜)
	御屏風(松竹梅)
	御屏風(和歌浦景)
四日目七番(朝)	御屏風(和歌浦御腰屏風)
	御屏風(二枚折)
	御屏風(二枚折)
	御小屏風(唐子遊び)
	御小屏風(はな鳥)
	御衝建 ×2
	御屏風 ×3
	栗色御長持 ×2
	御長持 ×5
	栗色御長持 ×2
御長持	
四日目七番(朝)	御勝手御道具隻入 ×23
四日目八番(暮)	御勝手御道具隻入 ×22



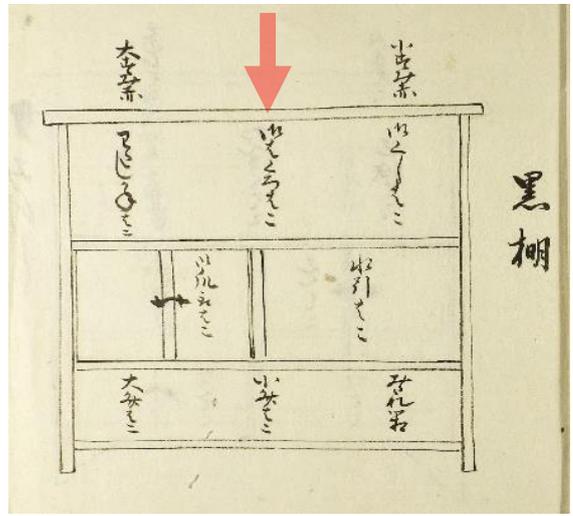
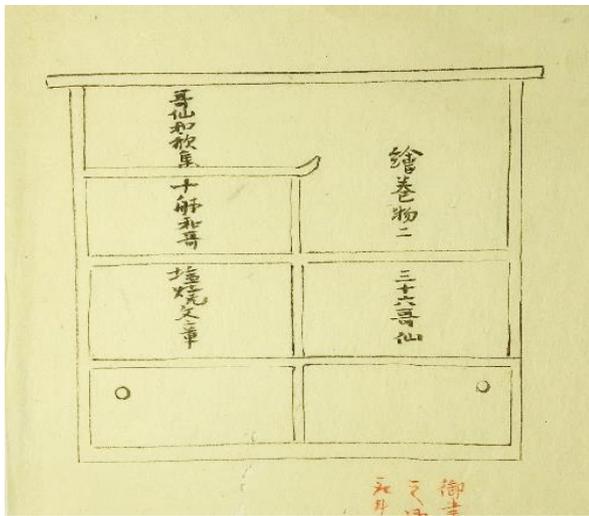
「藤姫様御道具御行列帳」(16.16-134)

11代藩主治脩の養女(重教娘)藤姫の婚礼道具を運ぶ行列を記した史料(藤姫は、寛政6年11月に高松藩主松平頼儀と婚礼)。「源氏物語」などの書物がみられる。この時は、左の表の通り、4日間にわけ約280品の道具が運ばれた。



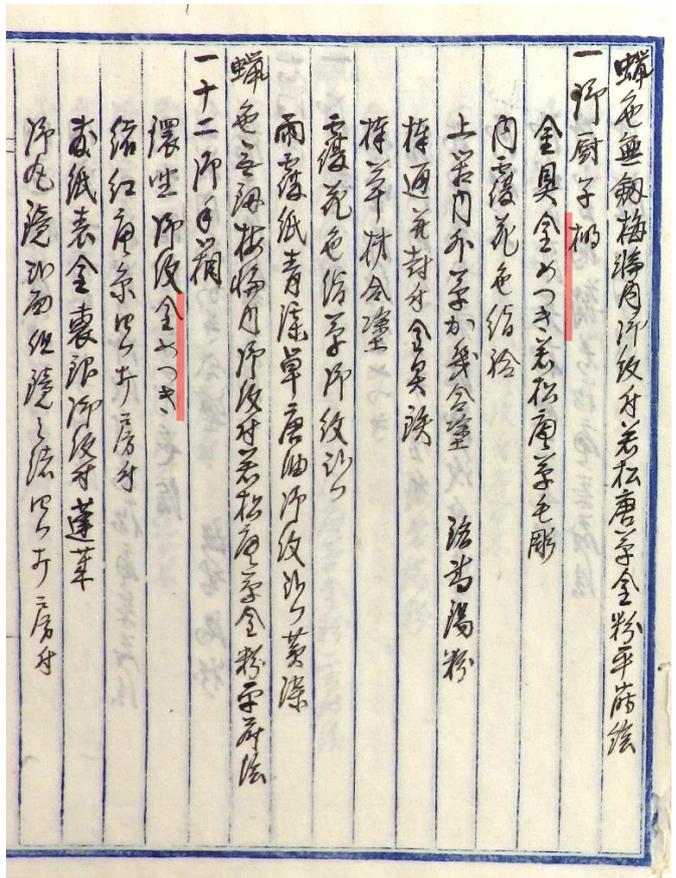
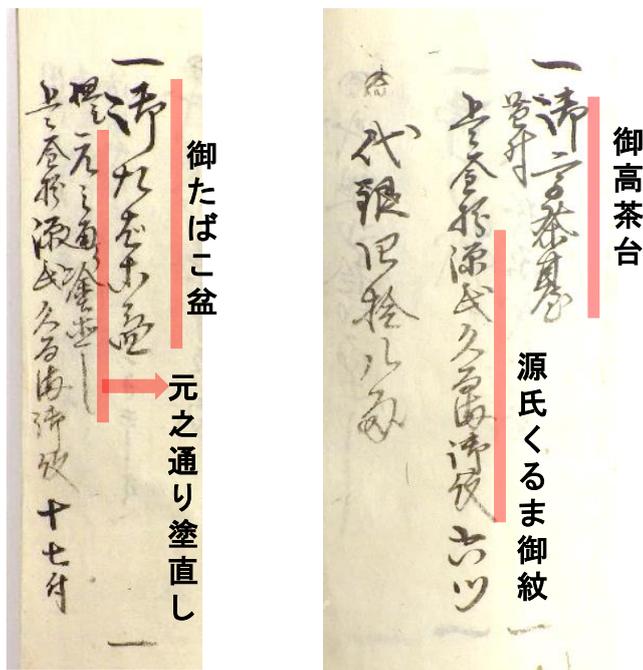
「勇姫様御婚礼御用留帳」(16.16-186①)

天明2年(1782)1月に行われた、12代藩主齊広の娘勇姫の道具御覧をあらわした図。道具御覧とは、相手の屋敷に婚礼道具を運び込む数日前に、嫁側の屋敷で婚礼道具を飾付け、お披露目することである。勇姫の場合は、江戸本郷邸で行われた。黒棚、小袖、犬張子、扇子などがみられる。



「御三棚御飾(天保2年12月)」(「勇姫様御婚礼一件」、16.16-185⑤)

藩主斉広の娘勇姫の婚礼道具である書棚(左)、黒棚(右)の図。これらは、他の姫の婚礼道具でも必ずみられる道具であった。書棚の図からは書物の他に絵巻物があったこと、黒棚の図からはお歯黒箱(矢印)などが置かれていたことがわかる。



「御婚礼御用塗物御道具書上帳」(16.16-230)

「勇姫様御婚礼一件」(16.16-186 ②)

文久2年(1862)12月、14代藩主慶寧の娘として誕生した灌(むら)姫は、明治4年(1871)3月に榊原政敬との縁組の許可を得たが、翌年7月に死去した。

その姉にあたる礼姫は、文久2年に会津藩主松平容保と婚約するが、明治4年にそれを解いた。そして、同6年に妹の灌姫と縁組する予定であった榊原政敬との婚礼を行った。上の史料は、その際に婚礼道具を塗り直した品、及びその代金を記したものである。「元之通り塗直し」とあり、もともとあったものを再利用していることがわかる。また、榊原家の家紋である「源氏くるま」の紋(右図)を付けていたことも確認できる。

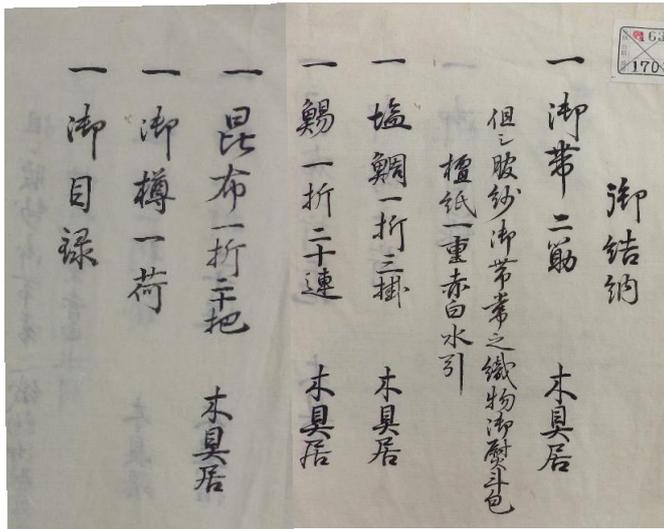
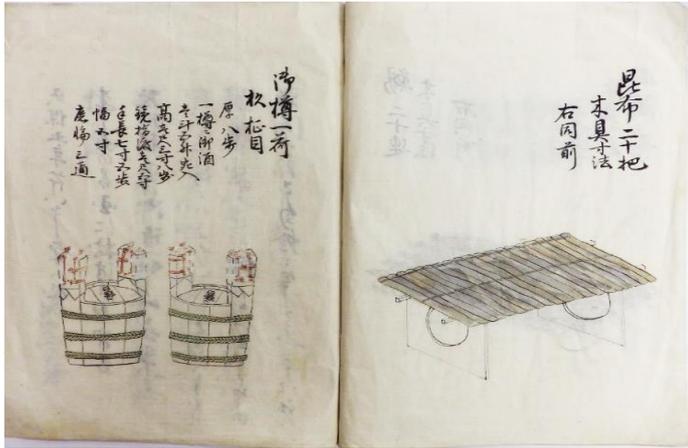
藩主斉広の娘勇姫の婚礼道具の意匠を記した。「金めつき」などと書かれており、豪華であったことがうかがえる。



「御紋本」(「灌姫様御婚礼一件」、16.16-224④)

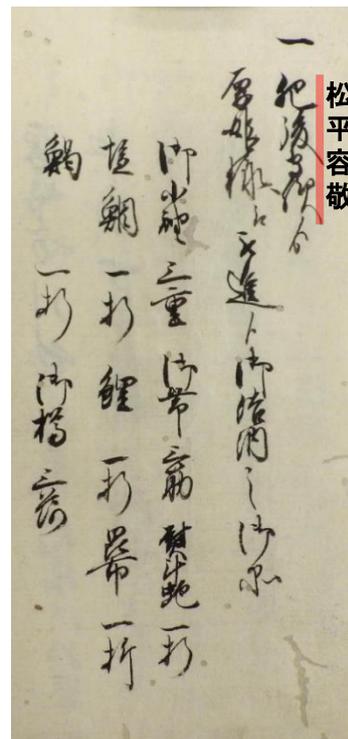
3. 結納

婚礼道具が運び込まれた一定期間後、結納が行われた。結納では、結納品を互いに使者をつかい送り合っていた。ここでは、その品物を中心にみていく。



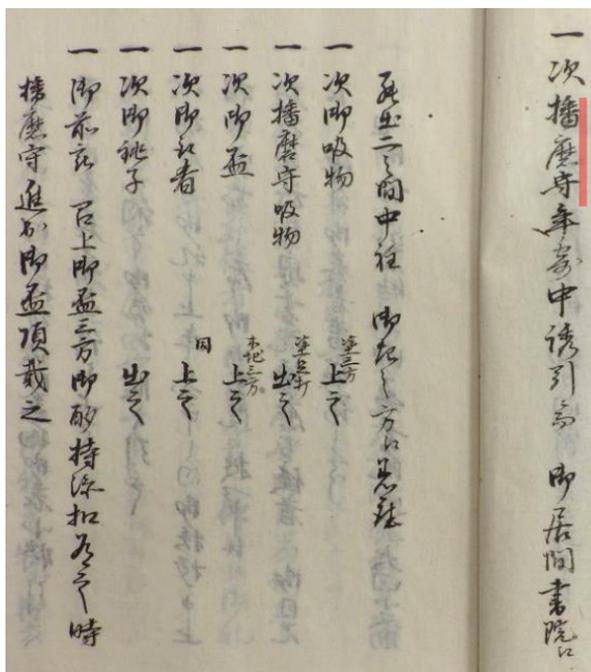
「播磨守殿より御結納御帯三種一荷積方図」(16.16-193)

12代藩主齊広の娘寿々(すず)姫と加賀藩年寄本多政和の結納時に、政和側が送った結納品を記した史料。「帯」「目録」の他に、上の絵図のように「塩鯛」「鰯(するめ)」「昆布」「樽」があった。



藩主齊広の娘厚姫と会津藩主松平容敬の結納時に、容敬が厚姫に送った結納品が記されている。上の本多政和が送った結納品と異なるのは、左では「小袖」「熨斗地」「鯉」がみられる一方で、「昆布」がみられないことである。

「厚姫様江戸御着府より御婚礼一卷」(16.16-169)

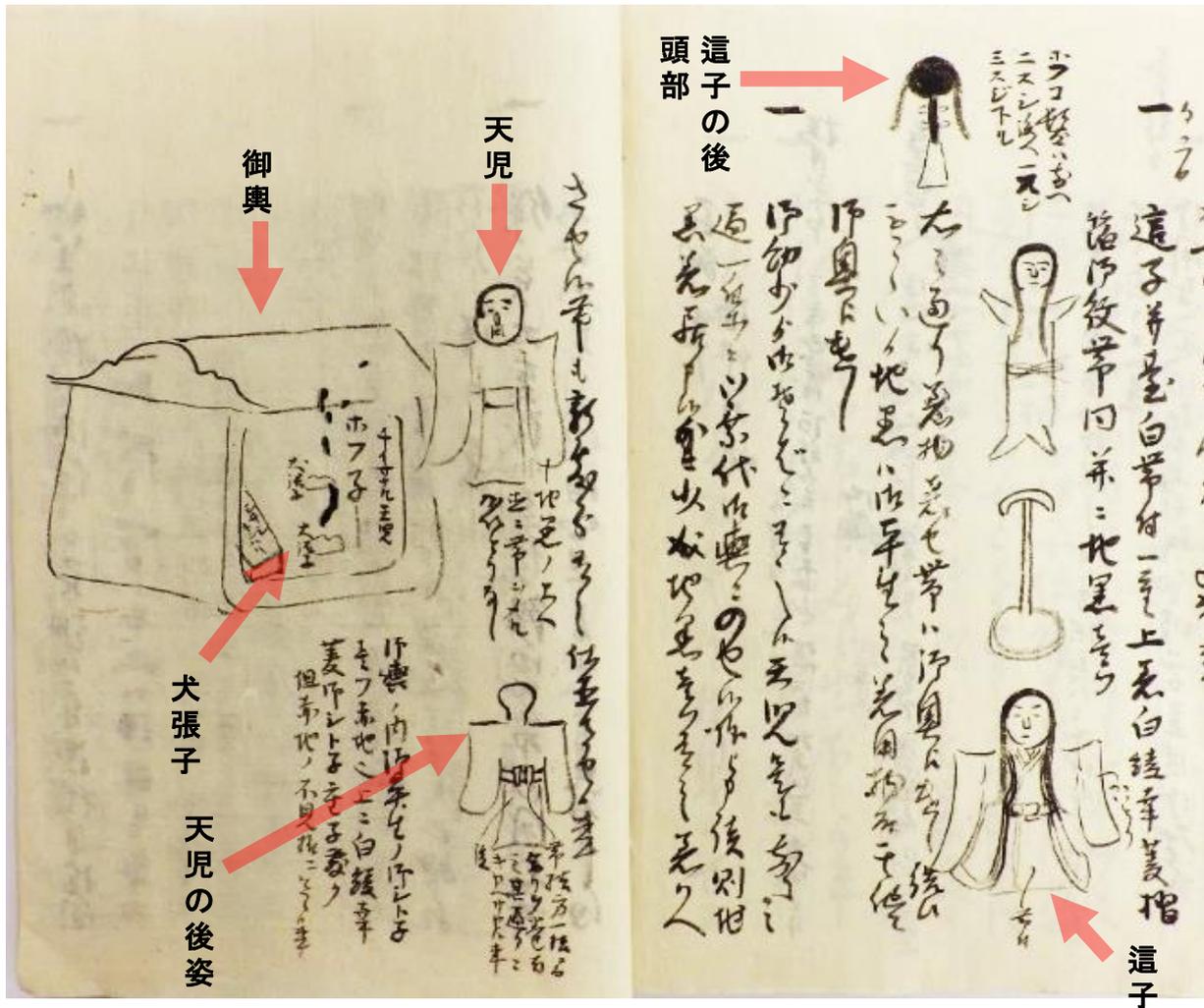


「御結納御道具御行列皆子餅」(「寿々姫様御婚礼一件留」、16.16-191③)

本多政和は、上の結納品を使者によって前田家側に送り、その後登城した。そして、金沢城二ノ丸御殿の御居間書院に出座し、吸物、酒などを頂戴した。

4. 引移りと婚礼

結納後、姫が相手の家に引移り（輿入れ）、婚礼が行われた。ここでは、それらの様子を見ていく。



「寛姫様御婚礼御用留」(「寛姫様御婚礼一件」、16.16-182①)



「厚姫様御婚礼御用留」(「厚姫様御婚礼一件留」、16.16-170①)

(上) 文政10年(1827)11月、12代藩主斉広の娘寛姫は、小倉小笠原家の世嗣忠徴(後に藩主)と婚礼を行った。上の史料は、その引移りの際に、御輿の中に入れる品を記した部分である。御輿の中には、絵にあるように、「這子(はうこ)」(赤子の姿に作った人形で、幼児の魔除けとして用いられていた)、「天児(あまがつ)」(形代として幼児のそばに置き、災いなどを請け負わせる人形)があった。それらの髪型、着物の色なども、詳細に決められていた。例えば、這子の後頭部を描いた部分には、「髪ハ前へニスシ後へースシ三スジ下ル」と記されている。その他、御輿の中には犬張子も2体いることが確認できる。これらのものは、婚礼道具として、大量の荷物とともに運ばれるのではなく、引移りの際に自ら持参するものであった。

(左) 藩主斉広の娘厚姫が会津藩主松平容敬の屋敷へ引移る際の持ち物を記した部分。這子、犬張子などがみられる。これも寛姫の事例と同様、御輿に入れていた。

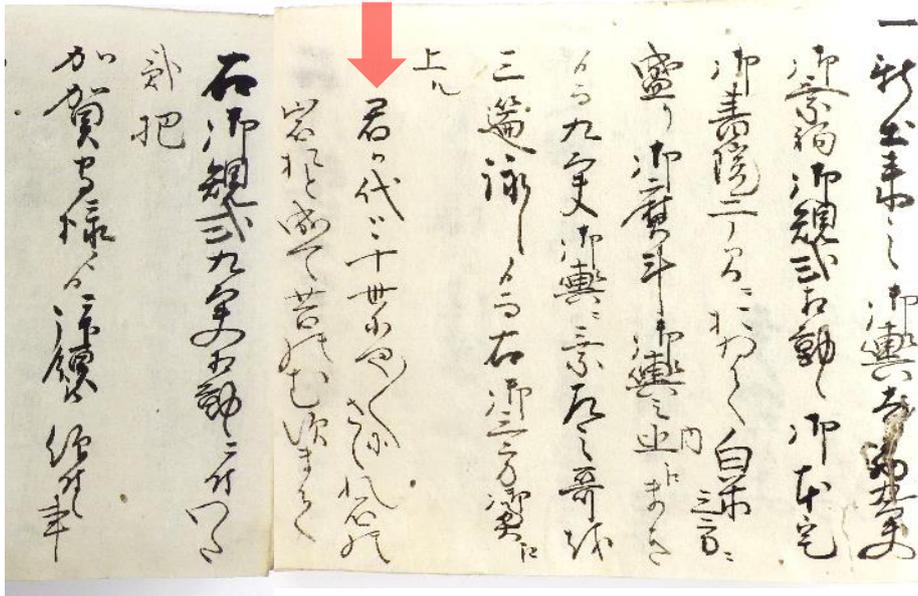


「犬張子」(東京国立博物館所蔵。同館デジタルコンテンツより転載)



「犬張子」(個人蔵)

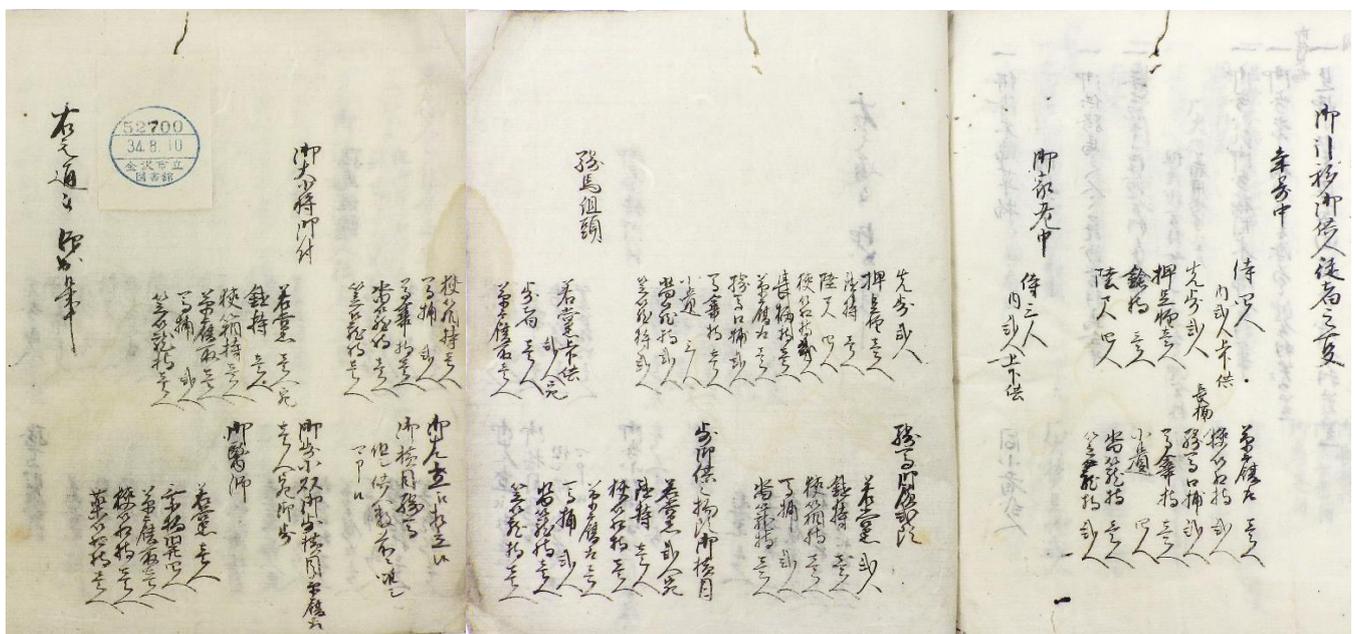
前頁でみた、厚姫が持参した犬張子は、左上のように犬が伏した姿のものであったと考えられる。これは古くから作られていた形であり、犬箱とも呼ばれた。右上の立ち姿の犬張子は、江戸時代中期以降作られるようになったものである。犬は、多産でお産も軽いと信じられていたことから、古くから犬張子は嫁入道具の一つであった。



「御婚礼記」(16.16-129)

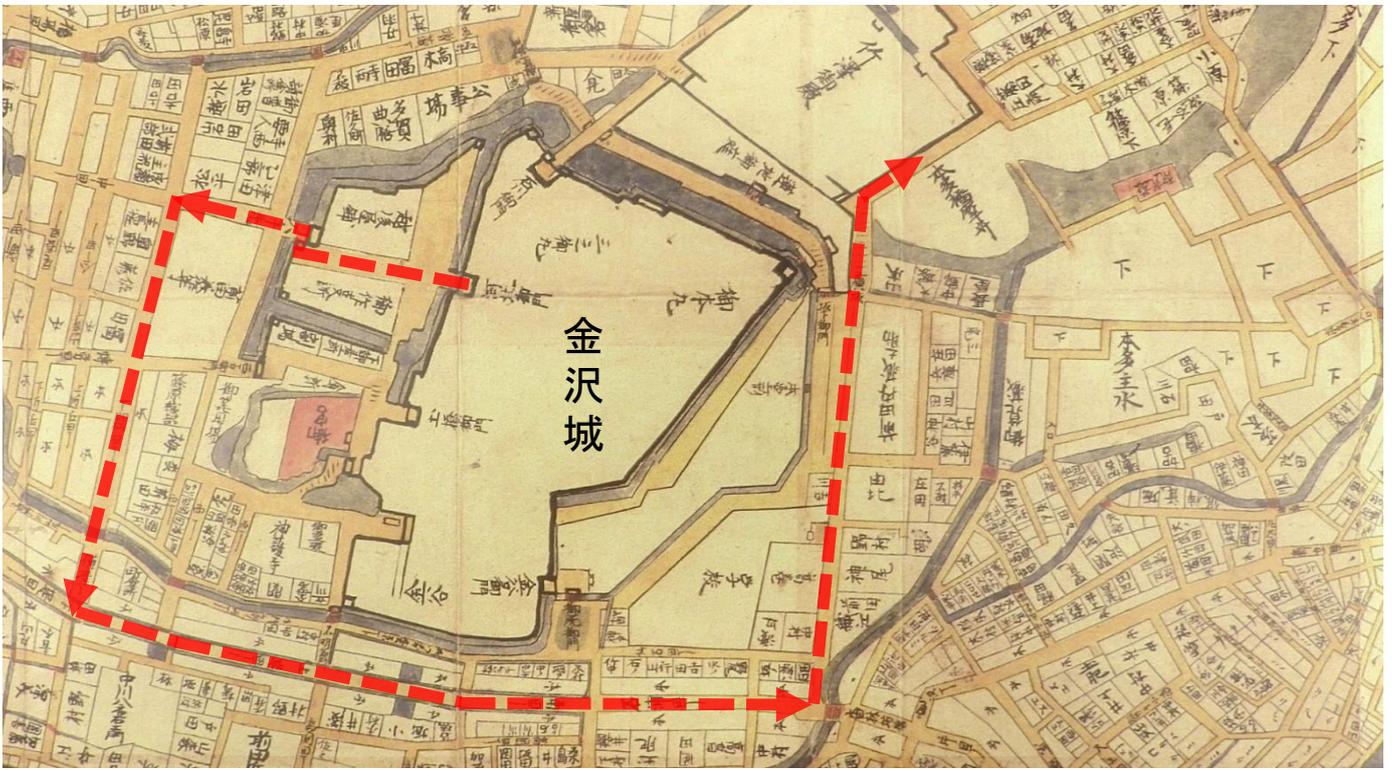
天明3年(1783)12月、11代藩主治脩の養女穎姫(10代藩主重教娘)は、会津松平家の容詮との婚礼を行った。左の史料は、その引移り前の様子を記した部分である。江戸本郷邸の書院二之間に白米を三方に盛り、熨斗を御輿の内にまき、寺西九大夫(御付物頭)が御輿

に乗り、「君が代」(矢印部分)を3回歌ったと記されている。末永い繁栄を願い、このような儀式が行われていたのであろう。

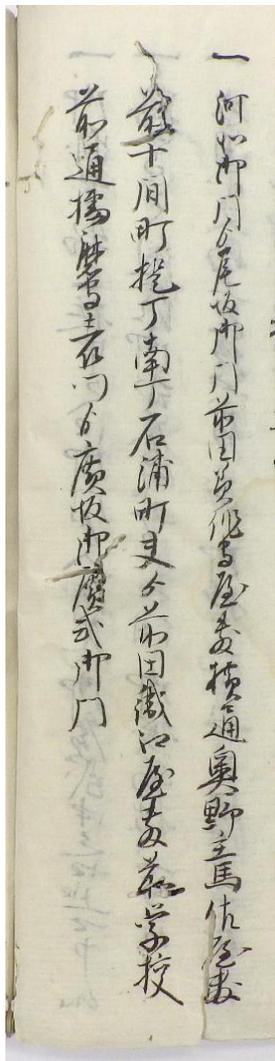


「寿々姫様本多播磨守へ御守殿御引移御作法書一卷」(16.16-204)

藩主斉広の娘寿々姫が、本多政和の屋敷へ引移る際に御供した者が書かれている。この史料によれば、御供数は約100人であった。

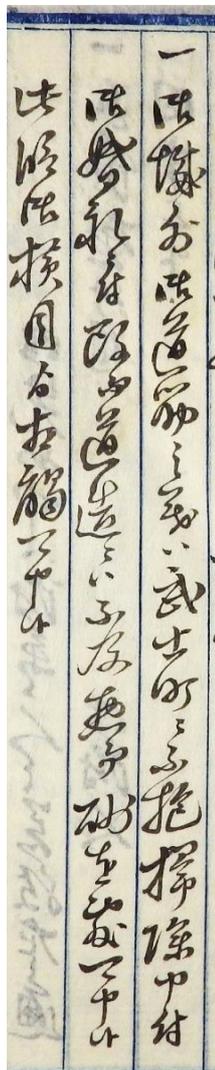


「金府大絵図」(大1005)



「寿々姫様本多播磨守へ御守殿御引移御作法書一巻」(16.16-204)

一、河北御門方尾坂御門、前田美作守屋敷横通、奥野主馬佐屋敷前、十間町、堤丁、南丁、石浦町方前田織江屋敷前、学校前通、播磨守表門方広坂御広式御門

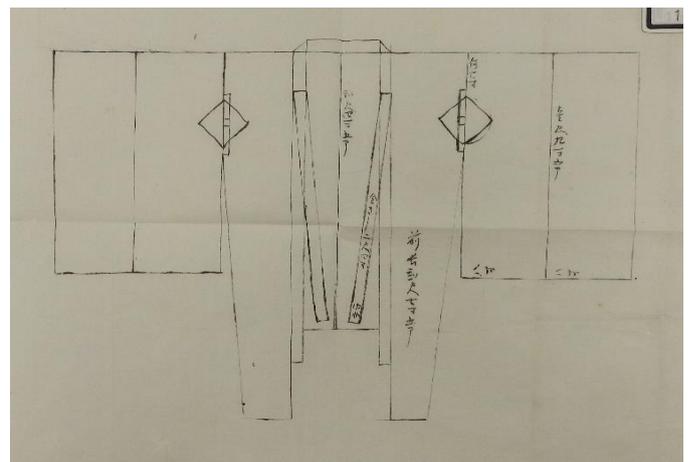


「寿々姫様御引移之節御作法附等」(16.16-203)

(左) 藩主斉広の娘寿々姫が、本多政和の屋敷へ引移る時のルートを示した部分。金沢城の正門である河北門、尾坂門(大手門)を通り、十間町、堤町、石浦町などを通過し、本多家上屋敷に入るルートであった。これを絵図で示すと、上の図のようになる。

(右) この引移りの行列が通過するため、城の前や道筋を掃除するようにと触が出されていた。

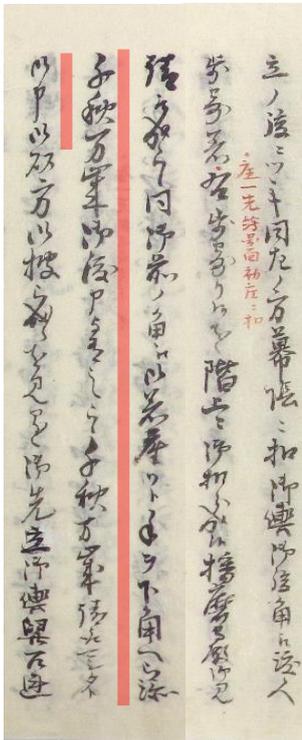
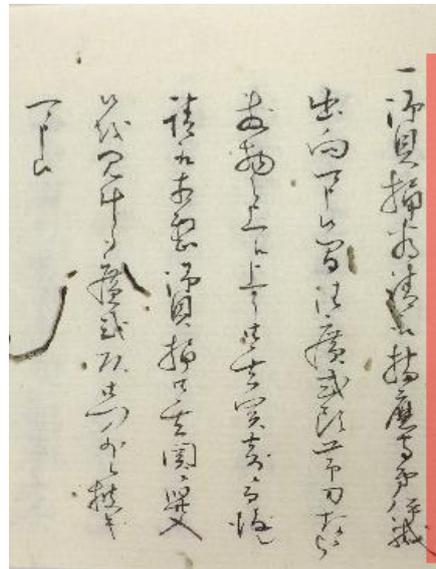
(下) 御輿をかつぐ人は、下図にあるような物を着用することとされ、服装が統一されていた。



「御式正御道具御飾付御間等絵図」(「寿々姫様御婚礼一件」、16.16-189-6-5)

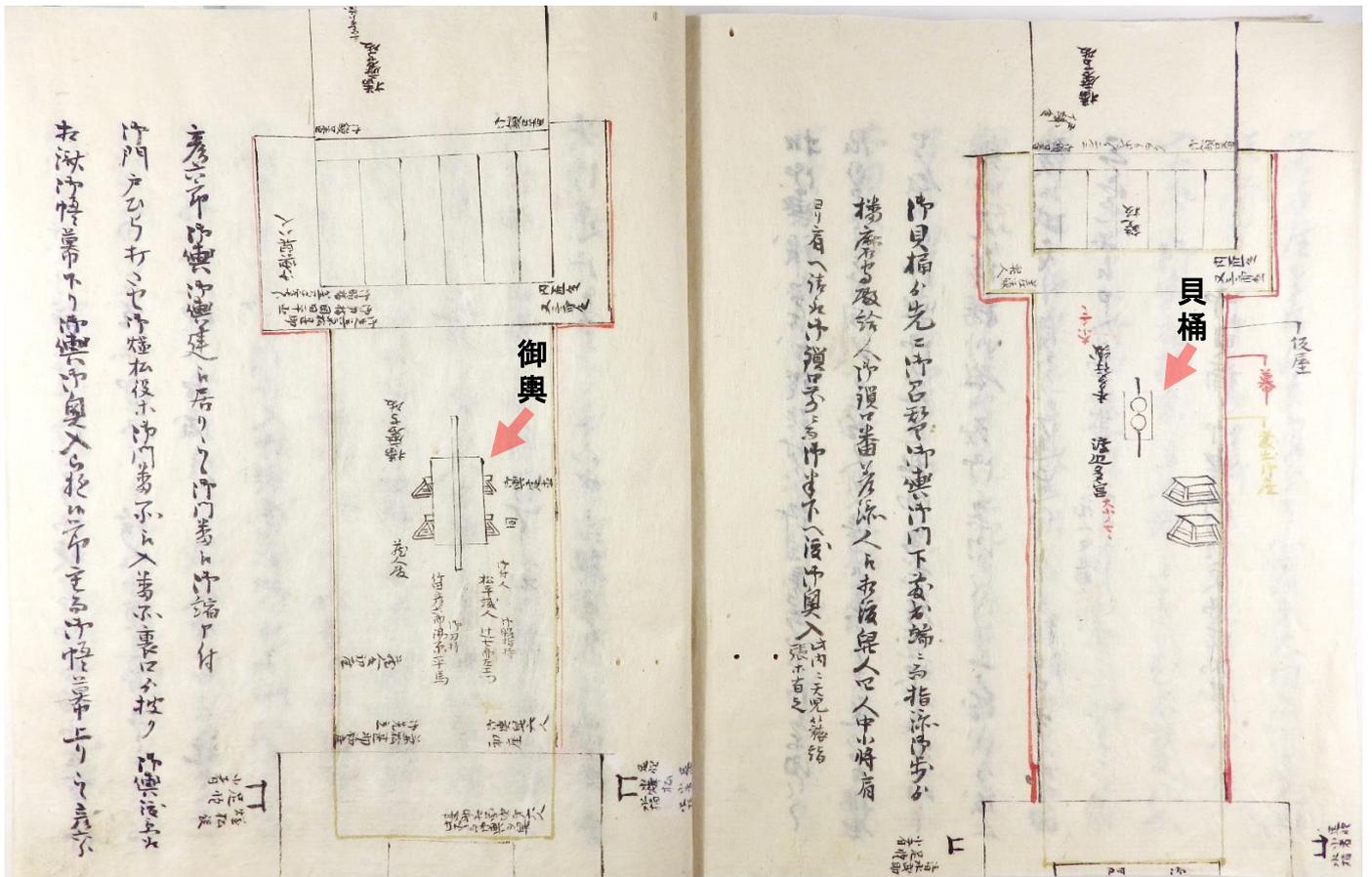
「寿々姫様御婚礼御作法等」
(16.16-196)

藩主斉広の娘寿々姫の引移りの行列が本多政和の屋敷に到着したら、御輿とともに貝桶（貝合わせの貝を入れる桶。多くは八角形、印籠蓋黒塗りに蒔絵を施したもの）も渡された。それを受け取ったのは、政和の弟伊織であった。



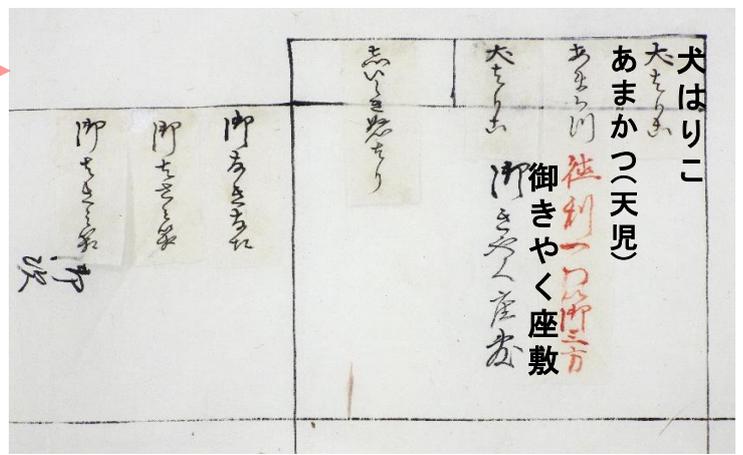
藩主斉広の娘寿々姫が本多政和の屋敷に到着した時の様子が書かれている。御輿を本多家側に引き渡す際に、「千秋万歳御渡申」と言い、受け取った側（この事例では政和本人）も「千秋万歳請取マシタ」と言うと言われている。

「播州殿御願御婚礼留」
（「寿々姫様御婚礼一件」、
16.16-189①）



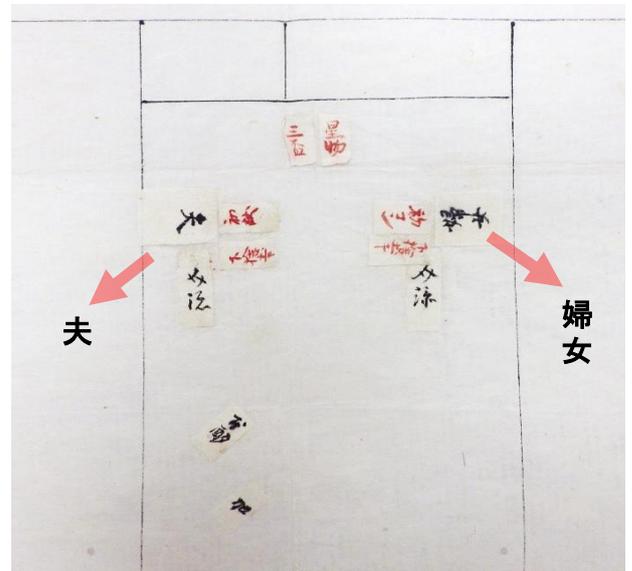
「寿々姫様御婚礼一件」(16.16-189①)

藩主斉広の娘寿々姫の引移りの行列が、本多政和の屋敷に到着した時の人の配置、作法などが書かれている。右が貝桶、左が御輿の受け渡し時のものである。



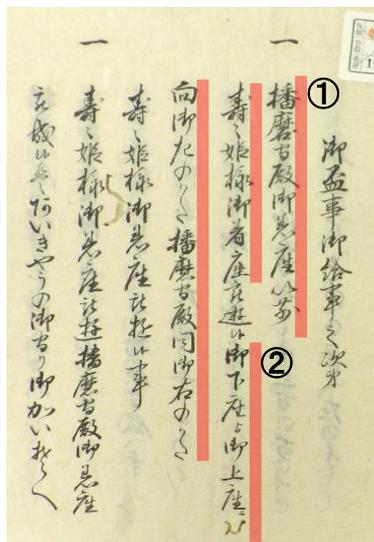
「寿々姫様御婚礼之際御規式等絵図」(16.16-197⑤)

藩主斉広の娘寿々姫が引移り先の本多政和の屋敷に到着し、道具類が客座敷、対面所などへ持ち込まれ、置かれているところをあらわした図。犬張子、天児などがみられる。



「御式場図」(「寛姫様御婚礼一件」、16.16-182⑦)

文政10年(1827)11月、藩主斉広の娘寛姫と小倉小笠原家の世嗣忠徴(後に藩主)の婚礼当日の食事の様子を描いた図。両者が向かい合って座っている。



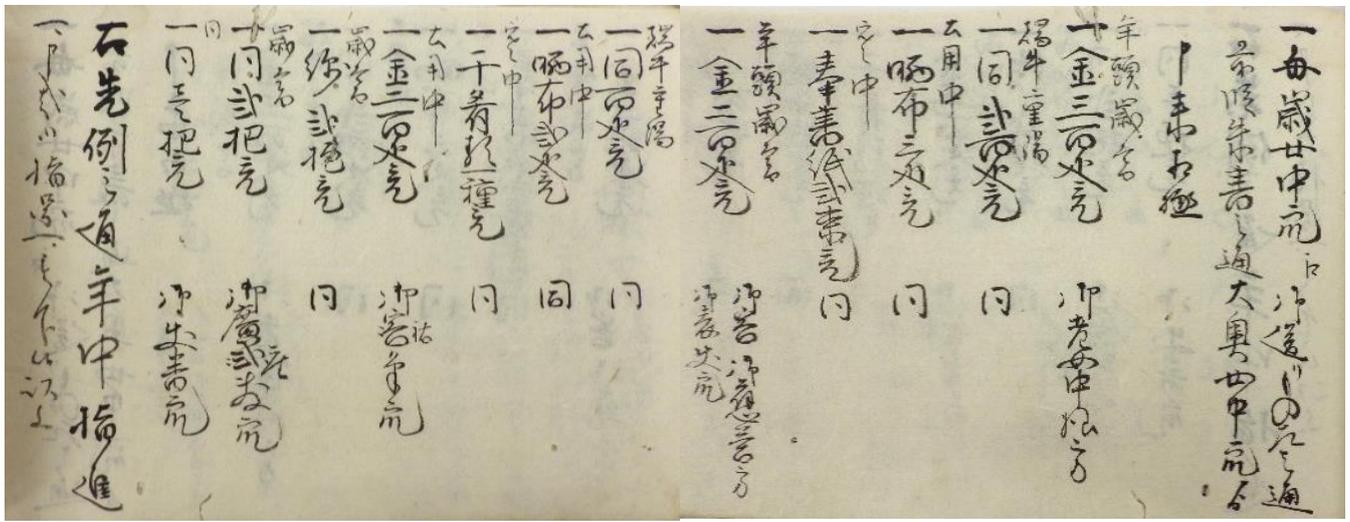
「御盃事御給事之次第」(「寿々姫様御婚礼一件留」、16.16-191⑩)

藩主斉広の娘寿々姫と本多政和の婚礼の作法を記した史料。先に寿々姫が着座し、後から政和が着座した(傍線①)。また、寛姫の婚礼当日の図のように、夫婦対面で着座していた(傍線②)。



「御婚式御順」(「寿々姫様御婚礼一件」、16.16-189③)

藩主斉広の娘寿々姫と本多政和の婚礼当日の手順を記した史料。上に具体的な行動、下にそれを担当する給仕役の女中の名前が書かれている。



「御婚礼記」(16.16-129)

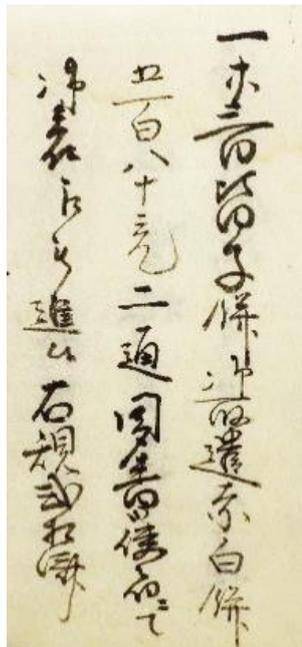
天明3年、藩主治脩の養女穎姫は、会津松平家の容詮との婚礼を行った。加賀藩側は、婚礼後も毎年姫付の女中衆へ金銭などを送っていた。

5. 婚礼後の諸儀式

婚礼後には、皆子餅（みなこもち）、聳入（むこいり）、里披（さとびらき）、舅入（しゅうといり）といった諸儀式が行われた。ここでは皆子餅、聳入、里披についてみていく。

(1) 皆子餅

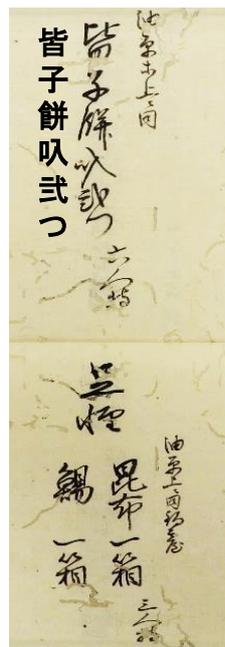
皆子餅とは、婿・舅の双方でともに餅をつき、580個（あるいは587個）に丸めて、筵を袋状にした呷（かます）と呼ばれるものに入れ、使者に持たせ、互いに祝う儀式のことである。



「御婚礼記」(16.16-129)



「厚姫様御婚礼御用留」
 「厚姫様御婚礼一件留」、
 16.16-170①)

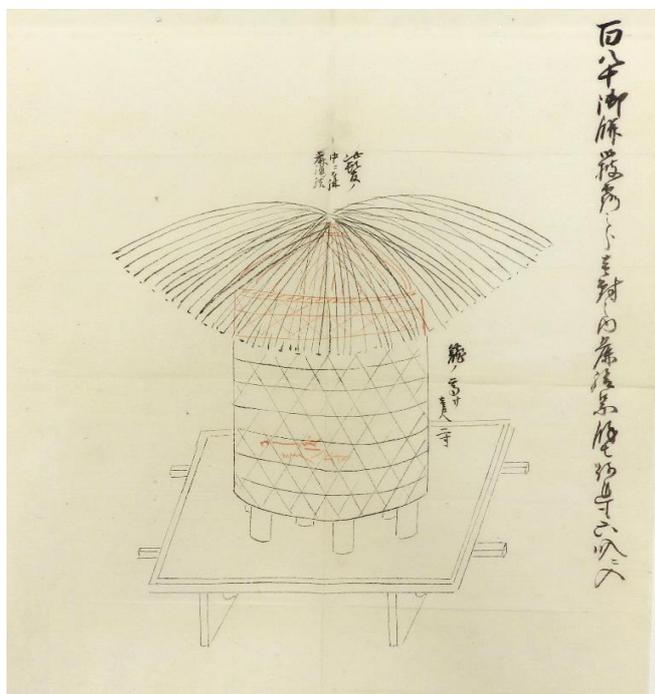


「厚姫様皆子餅
 御双方御取遣之
 節御作法并御行
 列附」(16.16-
 175)

(左) 11代藩主治脩の養女穎姫と会津松平家の容詮の婚礼後に行われた、皆子餅の様子を記した部分。この時は、580個の紅白の餅を送った。

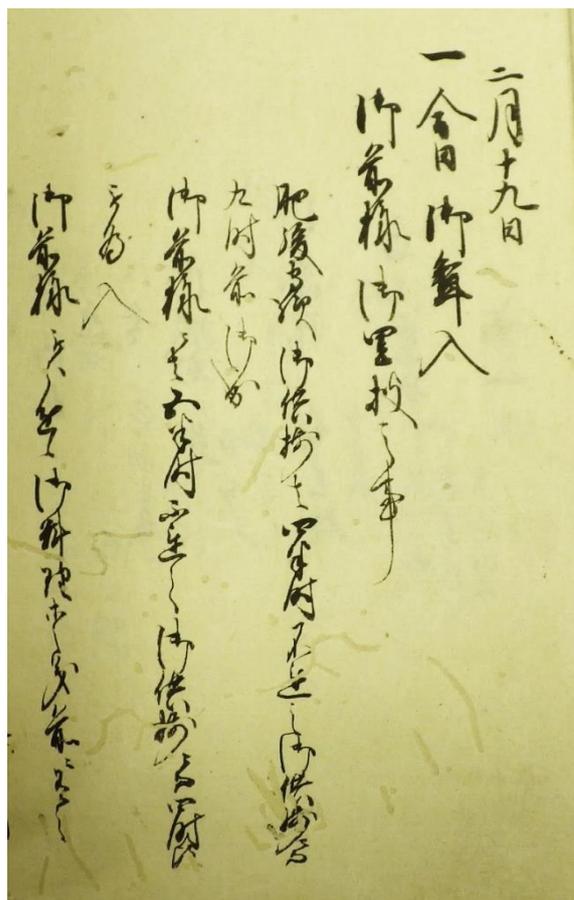
(中) 12代藩主斉広の娘厚姫が会津藩主松平容敬との婚礼後、容敬側に送った皆子餅は180個で、その内訳は赤い鳥の子型90個、白い丸形90個であった。この婚礼は、先にも説明したように財政難の時に行われたため、餅の数も少なかったであろう。

(右) これも厚姫の事例で、皆子餅を運ぶ行列を記した史料。餅は、次頁の図にあるような髭籠（ひげこ）に入れて運ばれる分と、呷に入れて運ばれる分があった。



「百八十御餅御披露籠図」(「厚姫様御婚礼一件留」、16.16-170⑤)

餅を運んだ髭籠の図。髭籠とは、竹などを編んで、編み残しの端をひげのように延ばしたかごのことで、贈り物を入れるのに用いられていた。

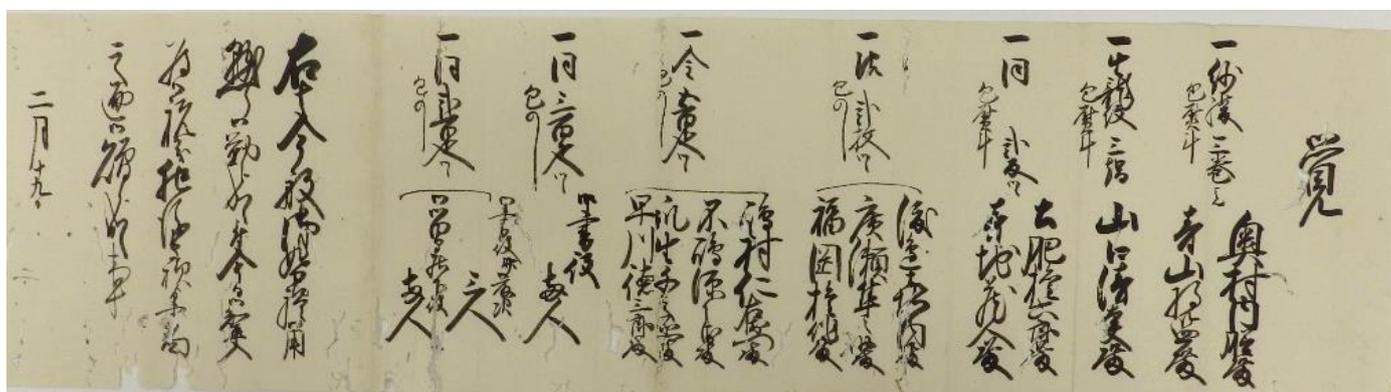


「厚姫様江戸御着府より御婚礼一件」(16.16-169)

(2) 簪入

簪入とは、婚礼の数日後、夫が初めて嫁の実家を訪れる儀式のことである。この場合の「簪」とは、娘の夫を意味している。

右上の史料は、藩主斉広の娘厚姫と会津藩主松平容敬の婚礼後に行われた、簪入の様子を記した部分である。4時頃（午前10時）、先に厚姫が本郷邸に入り、その後、4半時（午前11時）に容敬が来たことがわかる。その後、2人は食事をした。

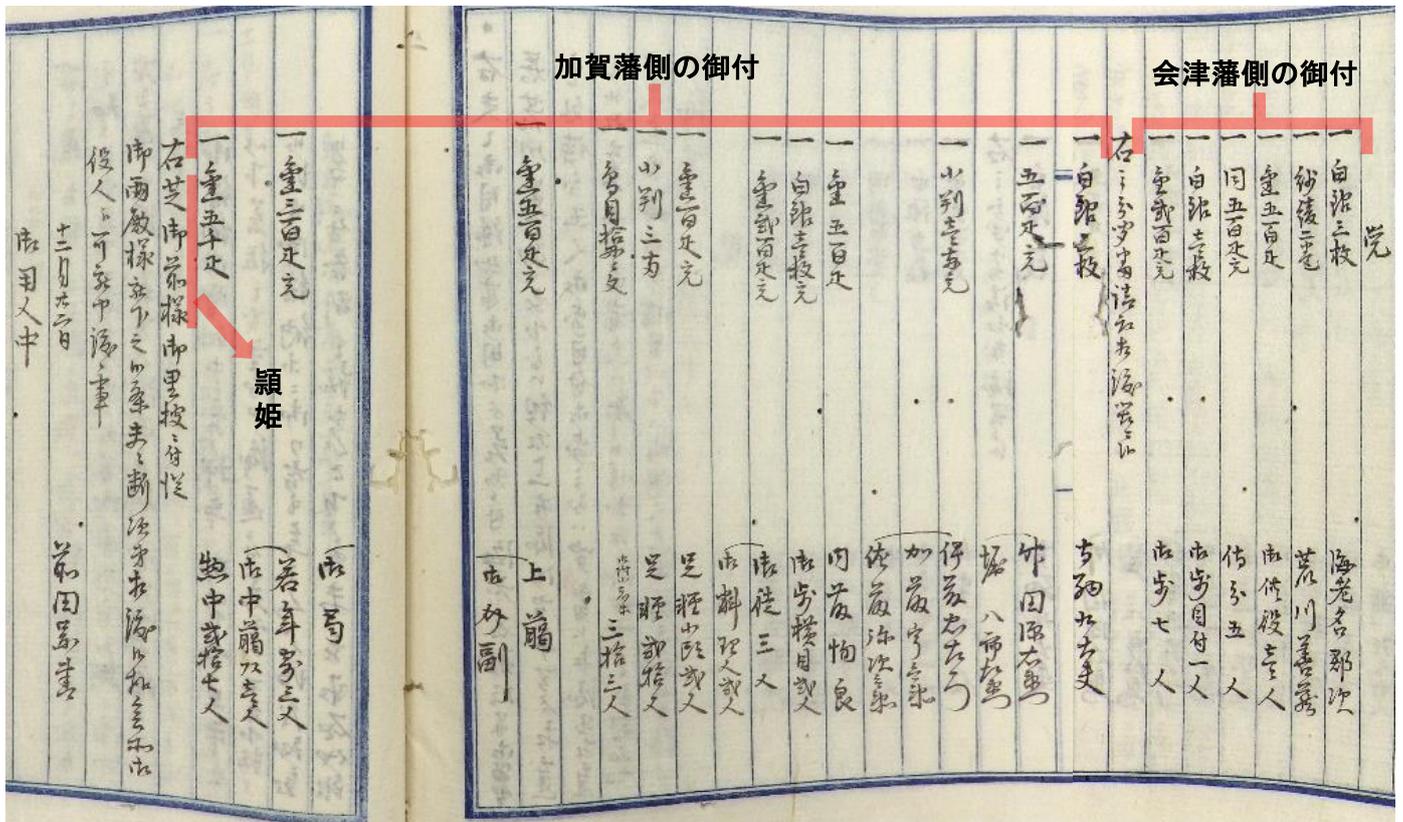


「肥後守様御簪入之節年寄中等迄御贈物書立物」(16.16-181③)

藩主斉広の娘厚姫と会津藩主松平容敬の婚礼後に行われた簪入で、当時在府していた者や婚礼御用などを勤めた者が品物を頂戴したことが記されている。

(3) 里披

里披とは、婚礼後に夫婦が嫁の実家に行き、食事などを行うことである。



「額姫様御婚礼方御用一巻」(16.16-128)

重教・治脩からの「被下物」

藩	名前・役職	「被下物」
会津	海老名郡次	白銀3枚
	荒川善蔵	紗綾2巻
	御供役1人	金500疋
	侍分5人	金500疋充
	御歩目付1人	白銀1枚
	御歩7人	金200疋充
加賀	寺西九大夫	白銀3枚
	竹田源右衛門	500疋充
	堀八郎左衛門	
	伊藤忠左衛門	小判1両充
	加藤宇兵衛	
	佐藤弥次兵衛	金500疋
	内藤恂良	
	御歩横目2人	白銀1枚充
	御徒3人	金200疋充
	御料理人2人	
足輕小頭2人	金100疋充	

足輕20人	小判3両
御附小者等33人	鳥目10貫文
上臈	金500疋充
御介副	
御局	
若年寄3人	金300疋充
御中臈頭1人	
惣中27人	金5000疋

天明3年(1783)12月、藩主治脩の養女額姫(芝御前)と会津松平家の世嗣容詮の婚礼後に里披が行われた。上の史料は、その際、前藩主重教、藩主治脩から会津藩側・加賀藩側の姫の御付を勤めた者に対して下された金銭を記した部分である。それを一覧にしたものが左の表である。

付録 前田家娘一覧

藩主	娘	母(正室・側室)	娘の経歴など	娘享年(歳)	備考
前田	幸(督、郷、春桂院)	芳春院(正室・松)	永禄2年6月、誕生 藩士前田長種室 元和2年4月死去	58	
	蕭(粧、昌、将、増山殿、瑞雲院)	芳春院(正室・松)	永禄6年、誕生 藩士中川光重室 慶長8年11月死去	41	
	摩阿(麻阿、阿茶、少将、加賀殿、祥雲院)	芳春院(正室・松)	元龜3年、誕生 天正13年、関白豊臣秀吉側室。加賀殿と呼称 その後、万里小路充房室 慶長10年10月死去	34	
	豪(於語、京、備前君、樹正院)	芳春院(正室・松)	天正2年、誕生 豊臣秀吉の養女、宇喜多秀家室 寛永11年5月、死去	61	

①利家	与免（与米、養泉院）	芳春院（正室・松）	天正5年、誕生 浅野幸長婚約、入輿前に死去	17	
	菊（金溪空玉童女）	隆興院（側室・岩）	天正6年、誕生 豊臣秀吉の養女、その後、大津の商人西川重元の家で生活 天正12年8月、死去	7	
	千世（千代、長、春香院）	芳春院（正室・松）	天正8年5月、誕生 細川忠隆室、離別後、藩士村井長次室 寛永18年11月、死去	62	
	福（高源院）	金晴院（側室・存）	天正15年、誕生 藩士長好連室。好連死後、藩士中川光忠室。光忠謫居後、今枝直恒の家で生活 元和6年7月、死去	34	
	模知（保智、清妙院）	隆興院（側室・岩）	文禄4年9月、誕生 徳川家康の子松平信吉と婚約。入輿前に信吉死後、藩士篠原貞秀室 慶長19年8月、死去	20	
	喜意（紀伊）	芳春院（正室・松）		不明	
	斎（佐井、才）	芳春院（正室・松）		不明	
②利長	満（蓮成院）	不明	慶長16年2月、死去	不明	
	某（理松院）	(養女)	藩士山崎長郷室。長郷死後、藩士富田重家室 元和元年10月、死去	不明	養女（もと宇喜多秀家娘）
	某（永寿院）		藩士青山吉次室 寛永6年6月、死去	不明	養女（もと寺西九兵衛娘）
	某（竹島殿、久香院）		藩士前田直知室 元禄4年12月、死去	不明	養女（もと長連龍妹、あるいは娘）
	松（久阜院）		藩士高昌定方室 寛永2年9月、死去	不明	玉泉院（利長正室・永）の養女（父不明）
	某（高守院）		藩士生駒直義室 正保元年8月、死去	不明	玉泉院（利長正室・永）の養女（もと織田信雄娘）
③利常	亀鶴（浩妙院）	天徳院（正室・珠）	慶長18年3月、金沢で誕生 将軍徳川秀忠の養女になる。その後、寛永3年2月、津山藩主森忠政二男忠広室 寛永7年8月、死去	18	
	小媛（小姫）	天徳院（正室・珠）	元和2年、金沢で誕生 元和3年3月、死去	2	
	満（自昌院）	天徳院（正室・珠）	元和5年12月、金沢で誕生 寛永12年9月、将軍徳川家光の養女、広島藩主浅野光晟室となる。 広島御前と呼称 元禄13年7月、死去	82	
	富（真照院）	天徳院（正室・珠）	元和7年正月、金沢で誕生 寛永19年9月、八条宮智忠親王妃 寛文2年8月、死去	42	
	夏（蓮台幻華童女）	天徳院（正室・珠）	元和8年3月、金沢で誕生 同9年3月、死去	2	
	春（自清院）	妙雲院（側室・古和）	寛永8年、金沢で誕生 藩士本多政長室 慶安3年6月、死去	20	
	松（陽春院）	霊梅院（側室・五條局）	慶安元年10月、小松で誕生 松山藩主松平定頼三男の定重（後桑名藩主）室 寛文6年正月、死去	19	
	龍（辰、花溪智清）	霊梅院（側室・五條局）	慶安3年12月、金沢（生駒内膳家）で誕生 承応3年3月、死去	5	

	熊（僊溪院）	福正院（側室・某）	承応元年2月、江戸で誕生。 寛文6年、会津藩主保科正之の世嗣正経（後藩主）室。芝御前と呼称 正徳5年2月、死去	64	
	某（太嶺院）	（養女）	藩士青山吉隆室 寛文9年9月、死去	不明	養女（もと美濃国野村藩主織田長孝娘）
	某（廉正院）		越中勝興寺常円室 元禄14年6月、死去	不明	養女（もと藩士神谷長治娘）
	某（香集院）		藩士長連頼室 寛永12年9月、死去	不明	養女（もと藩士不破光政娘）
	某（広慈院）		寛永14年、誕生 正徳4年2月、死去	78	養女（もと藩士不破勝次娘）
	某（清寥院）		藩士前田辰正室 辰正死後、藩士中村与次室 寛文3年9月、死去	不明	養女（もと藩士永原孝治娘）
	某（月光院）		竹屋中納言光長室 寛永9年4月15日	不明	養女（利家の弟利政娘）
	犬（光照院）		寛永11年、誕生 藩士前田貞里室 寛文元年7月、死去	28	養女（もと藩士長連頼娘）
⑤綱紀	専（瑞陽院）		慈雲院（側室・某）	延宝5年正月、江戸で誕生 天和元年正月、死去	5
	節（源光院）	慈雲院（側室・某）	延宝8年10月、江戸で誕生 元禄12年11月、広島藩主浅野綱長の世嗣吉長（後藩主）室。安芸御前・桜田御前と呼称 享保15年9月、死去	51	
	豊（梅窓院）	保寿院（側室・皆）	貞享4年3月、金沢で誕生 藩士前田孝資室 享保3年10月、死去	32	
	良（妙香院）	預玄院（側室・町）	元禄2年閏正月、江戸で誕生 元禄6年8月、死去	5	
	敬（宝林院）	保寿院（側室・皆）	元禄2年2月、金沢で誕生 宝永5年4月、鳥取藩主池田吉泰室。因幡御前・治容子河岸御前と呼称 元文2年6月、死去	49	
	直（泰真院）	保寿院（側室・皆）	元禄6年10月、金沢で誕生 正徳2年7月、内大臣二条吉忠室。榮君と呼称 元文元年8月、従三位に叙し、利子と称す 寛延元年12月、死去	56	
	恭（津代、円浄院）	（養女）	寛文6年2月、江戸で誕生 藩士長尚連室 宝永4年12月、死去	42	養女（もと七日市藩主前田利意娘）
	誠（寿、春嶺院）		元禄14年、江戸で誕生 正徳4年4月、西三条公福室。寿君と呼称 享保4年3月、死去	19	養女（もと藩士前田孝行娘）
	窈（昌光院）		元禄16年6月、江戸で誕生 享保8年9月、庄内藩主酒井忠真の世嗣忠寄（後藩主）室。柳原御前・神田御前と呼称 天明元年7月、死去	79	養女（もと広島藩主浅野吉良娘）
	喜代（宝仙院）	清月院（側室・瀧）	享保17年4月、江戸で誕生 寛保元年4月、広島藩主浅野吉長の世嗣宗恒（後藩主）室。桜田御前と呼称 寛延3年正月、死去	19	
	総（慈徳院）	真如院（側室・貞）	享保18年11月、江戸で誕生 延享3年4月、富山藩主前田利幸室 宝暦8年6月、死去	26	

⑥吉徳	楊（盛徳院）	真如院（側室・貞）	元文2年8月、江戸で誕生 宝暦2年7月、秋田藩主佐竹義真室 宝暦12年3月、死去	26	
	某（幻智院）	不明	元文2年8月、死去	不明	
	益（靈心院）	真如院（側室・貞）	元文4年4月、江戸で誕生 同年12月、死去	1	
	橘（宝明院）	木村氏（側室・蘭）	元文4年11月、江戸で誕生 同5年正月、死去	2	
	暢（斐、操、偕、祐仙院）	寿清院（側室・夏）	元文5年7月、金沢で誕生 寛延3年12月、右大臣二条宗基婚約 宝暦4年入輿前に宗基死去 同6年操姫と改名 同9年2月、姫路藩主酒井忠恭の子忠宜室 同11年7月、離別。同年、偕姫と改める 同13年、暢姫と呼称 安永4年、祐仙院と称す 天明3年、剃髪し、禪尼となる 寛政10年5月、死去	59	
	保（幻空院）	寿清院（側室・夏）	享保3年2月、金沢で誕生 同年12月、死去	1	
	弓（繁、玉台院）	（養女、貞昌院：大聖寺藩主前田利章の側室某）	享保8年2月、大聖寺で誕生 同20年10月、吉徳の養女。二条宗熙婚約。入輿前に宗熙死去 元文5年11月、盛岡藩主南部利視の世嗣利雄（後藩主）室。広尾御前と呼称 延享2年12月、弓姫と改める 寛延3年11月、死去	28	養女（もと大聖寺藩主前田利章娘）
⑩重教	邦（宣光院）	慧照院（側室・舜）	宝暦11年7月、金沢で誕生 明和6年7月、藩士前田孝友婚約 同8年5月、入輿前に死去	11	
	穎（松寿院）	慧照院（側室・舜）	明和3年8月、金沢で誕生 安永2年、藩主治脩の養女 天明3年12月、会津藩主保科容頌の養子容詮室。芝御前と呼称 享和3年閏正月、死去	38	
	某	真月院（側室・茂世）	安永5年7月、死産	死産	
	藤（順正院）	貞琳院（側室・喜機）	安永7年9月、金沢で誕生 寛政元年3月、藩主治脩の養女 同6年11月、高松藩主松平頼儀室。小石川御前と呼称 同8年9月、死去	19	
⑫斉広	直（蕊香院）	栄操院（側室・八尾）	文化6年6月、金沢で誕生 同8年3月、小倉藩主小笠原忠固の世嗣忠徹（後藩主）婚約 文政8年3月、入輿前に死去	17	
	厚（芳、恒、清仙院）	栄操院（側室・八尾）	文化10年4月、金沢で誕生 同12月、盛岡藩主南部利敬の世嗣利用（後藩主）と婚約 文政2年12月、恒姫と改める 同8年、利用死去。厚姫と改める 同9年7月、会津藩主松平容敬と婚約 同11年2月、入輿。和田倉御前と呼称 嘉永5年7月、死去	40	
	勇（寿正院）	遠成院（側室・留奴）	文化10年5月、金沢で誕生 同12月、大聖寺藩主前田利之の世嗣利極（後藩主）と婚約 天保3年2月、入輿。池端御前と呼称 明治8年2月、死去	63	
	寛（寛順院）	栄操院（側室・八尾）	文化12年6月、金沢で誕生 文政10年11月、小倉藩主小笠原忠固の世嗣忠徹（後藩主）室。下谷御前と呼称 天保2年6月、死去	17	

	鈇 (洪福院)	貞正院 (側室・登佐)	文政元年9月、江戸で誕生 同9年12月、久留米藩主有馬頼徳 の世嗣頼永 (後藩主) と婚約 天保2年4月、入輿前に死去	14	
	郁 (従、椿樹院)	栄操院 (側室・八尾)	文政元年12月、金沢で誕生 同11年正月、鷹司輔熙と婚約 同12年5月、入輿前に死去	12	
	寿々 (忠、永禧院)	栄操院 (側室・八尾)	文政2年12月、金沢で誕生 天保5年11月、年寄 (八家) 本多 政和室 同6年6月、死去	17	
	次 (立華院)	栄操院 (側室・八尾)	文政2年12月、金沢で誕生 同6年4月、死去	5	
⑬齋泰	方 (照了院)	馨袖院 (側室・喜佐)	天保10年10月、金沢で誕生 同月、死去	1	
	初 (千齡)	賀古氏 (側室・こと)	万延元年7月、金沢で誕生 昭和4年9月、死去	71	
	洽 (寒、妙行院)	賀古氏 (側室・こと)	文久3年12月、金沢で誕生 明治10年2月、公爵二条基弘室 大正14年9月、死去	63	
	坻 (栄)	賀古氏 (側室・こと)	慶応3年4月、金沢で誕生 明治14年4月、浅野長道 (華族浅 野長勲の嗣子) 室、長道死去後、 金沢に戻る 同24年9月、子爵岡部長職室	不明	
⑭慶寧	礼 (睦、度、温良院)	久徳氏 (側室・筆)	安政元年11月、金沢で誕生 文久2年、会津藩主松平容保婚約 明治4年、婚約を解く 同6年2月、子爵榊原政敬室 同32年12月、死去	46	
	儔 (円明院)	久徳氏 (側室・筆)	安政3年3月、金沢で誕生 安政4年正月、死去	2	
	順 (灌、慧照院)	鈴木氏 (側室・利佐)	文久2年12月、金沢で誕生 明治4年3月、旧高田藩榊原政敬と の縁組許可 明治5年7月、死去	11	
	慰 (斐)	久徳氏 (側室・筆)	元治元年2月、金沢で誕生 明治13年11月、有栖川宮威仁親王 妃 大正12年6月、死去	60	
	衍	久徳氏 (側室・筆)	明治2年7月、金沢で誕生 明治18年3月、公爵近衛篤磨室 明治24年10月、死去	23	
	貞	酒井氏 (側室・宇路)	明治4年6月、金沢で誕生 明治25年11月、公爵近衛篤磨室 昭和20年8月、死去	75	

※『加賀藩史料編外備考』(前田家編集部、1936年)、『三百藩藩主人名事典』1、3、4(新人物往来社、1:1986年、3:1987、4:1989年)などにより作成。誕生、死去した年月が不明の場合もある。藩主名左の数字は代数である。

主な参考文献

- ・田嶋充子「婚礼の棚飾をめぐる諸問題—加賀前田家史料を題材とする事例研究—」(『芸術学学報』15、金沢美術工芸大学芸術学研究室、2008年)
- ・田嶋充子「近世大名の婚礼道具—加賀前田家史料を題材とする事例研究—」(『年報 美術工芸研究』10、金沢美術工芸大学、2009年)
- ・西沢敦男「旗本子女の婚姻について」(『地域政策研究』19(4)、高崎経済大学地域政策学会、2017年)

※掲載史料は、展示史料と異なる場合があります。